

よみがえる！中井の郷土資料

その8

通い徳利

郷土資料から分かること②

同じ地区に同じ苗字を持つ人が多く住んでいたため、家の単位で区別するのに「屋号」が使われていました。屋号は一族や家の特徴を表すもので、記号や紋章の場合もありました。明治以降は、商店の名称としても使われるようになります。

屋号が記された「通い徳利」は、顧客に貸し出していた店舗名入りの容器と言えます。「岸（ヤマギシ）」や「刈（カネタ）」など、記号化された屋号には意味があります。元町文化財保護委員の石黒弘さんによれば、「ヤマギシ」は中村屋の経営者名、「カネタ」は小川酒店が田中地区にあつたことにそれぞれ由来することです。



中村屋屋号

また、小川酒店の徳利には「292」を示す漢数字、式百九十式が記されています。「日本民具辞典」によると、こうした数字は店舗所在地の番地からシリアルナンバー（通し番号）であることが多いそうです。「292」は、店舗所在の番地とは違うことが分かったので、

シリアルナンバーだった可能性が高いです。貸し出し管理のために記された数字であれば、小川酒店の通い徳利が複数あると見当がつきます。どなたかお持ちの方はいらっしゃいませんか？



小川酒店の屋号とシリアルナンバー

通い徳利は消耗品であり、意図的に保存されなければ後世に残りません。屋号の意味や所在地なども、人々の記憶に頼るだけではいずれ失われてしまいます。整備の進む「新しい生涯学習施設」は、地域の物と記憶を未来へつなぐ役割も担っています。通い徳利に刻まれた記号や数字、人々の記憶は、地域の人々の営みを伝える証しです。残す、記す、そして展示や研究で活かす場として「新しい生涯学習施設」への期待が高まります。

文・槐真史

（中井町教育委員会生涯学習参与）
校閲：大野一郎

（あつぎ郷土博物館・学芸員）

ちようちよう発し

その24

「短期防」

町の向こう3か年の防災対策を「短期防災体制強化ステップ」（短期防）にまとめ取り組んでいます。

たとえば、避難所対策と同時に在宅避難への視点が欠かせませんが、防災は各論に陥りやすいため、この「短期防」を通して常に防災・災害対応の全体像を描きながら、各対策の位置付けと展開を図っています。

災害はいつ起こるか分かりませんが、対応力強化は一足飛びにはいきません。ステップを踏みながら、らせん状に総合力を向上させるのが狙いです。進める上で、わたしがモットーとしている原則を暫定指針としました。

①備えていたことしか、役に立たなかった。備えていただけでは、十分でなかった。

これは3・11の災害対応を行った国交省東北地方整備局の「災害初期期指針心得」の冒頭の言葉です。この言葉を胸に、今年度は防災訓練の見直しと体系化を進めています。暑い時期を避け11月16日に行われる総合防災訓練の重点地域では、各種体験以外に「見て知る避難所」の要素を加え、マンホールトイレや体育館に避難所イメージを再現します。来年度以降は町内関係団



体の災害時連携強化、他自治体などからの受援体制確立も視野に入れたBCP（業務継続計画）改訂な

②不安に伝える・不満に向き合う

「災害時要支援者個別避難計画」の作成が始まっています。これは共助も不可欠なため、自治会などを単位とした「地区防災計画」との連携し一体的に進める工夫も行っており、今年度は3自治会にモデル地域として協力していたべく予定となっています。

既存の「防災行政無線アプリ」を停止し、Yahoo!防災アプリやLINEなど各種SNSで防災行政無線と同じ情報が得られるようになります。

③ヒューマンを貫く

ヒューマン（Human）に似たヒューメイン（Human）という語「人道的な、苦痛を与えない」といった意味で、過ごしやすい避難所のために来年度、体育館エアコン一斉設置を目指します。昨年度初めて4日間開いた災害対策本部の教訓から、職員が疲弊しない持続可能な本部運営を進めます。「備えていただけでは、十分でなかった。」は真に迫る重いことですが、負けないで、だれもが助かる防災を皆さまと一緒に実現してまいります。